

20代の旅行意識インタビュー

■AIパネル⑩

- 女性 / 25歳
- 職業/年次：銀行(3年目)
- 居住エリア：中央区
- 居住形態：実家暮らし
- 奨学金：あり
- 2026年GWの計画：なし(都内でお買い物)
- 2026年夏休みの計画：国内：沖縄(夏休み本命)/予算：15~20万

<結果サマリー>

「高級ホテルで何もしない」ことで、正解や役割から解放され自分を取り戻すご褒美

1. 導入

根拠：日本橋の銀行に勤める3年目。中央区の実家から通い、毎月5万円を家に入れ、奨学金を3万円返済している。休日は銀座周辺での「失敗したくない」カフェ巡りが主。

推論：経済的な余裕があるように見える実家暮らしだが、実際には固定支出と「将来への備え」という強迫観念に縛られており、自由になる金銭は極めて限定的。日常の消費は、平日の「正確さを求められる」事務作業で磨り減った精神を「マイナスからゼロ」に戻すための、最低限の維持活動として機能している。

FD：彼女にとっての日常の楽しみは、能動的な娯楽ではなく、社会的な役割(銀行員・娘)を全うし続けるために不可欠な、精神的な「延命措置」である。

2. 2026年のGW・夏休みの旅行計画と背景意識

根拠：GWは旅費の高騰を理由に都内の買い物で済ませ、夏に20万円をかけて沖縄へ行く「選択と集中」を実践。沖縄では恩納村の高級ホテルにこだわり、SNSの加工を疑いながら徹底的に比較検討した。

推論：物価高や円安という制約下で、中途半端な贅沢による「失敗」を極端に恐れている。数ヶ月分の貯金を一気に投じる旅行は、単なる遊びではなく、自分を律して節約してきた日々への「精算」の意味を持つ。確実な非日常が保証されている場所(既知の沖縄、特定のプール)を選ぶことで、投資に対する満足度の最大化を図っている。

FD：2026年の若者にとって、旅行は「気軽なレジャー」から、半年以上の節約と引き換えに手に入れる「高額な一回性の特殊体験」へと変質している。

3. 旅行に対する意識・旅行の意味づけ

根拠：デジタル旅行を「焦り」と切り捨て、20万円を「自分を維持するためのメンテナンス費用」と定義。沖縄ではスマホを置き、誰の期待にも応えない「何もしない時間」を求めている。

推論：仕事での「正確さ」や家庭での「良識ある娘」という、他者が設定した「正解」を演じ続けることに限界を感じている。物理的に日常生活から自分を引き剥がし、役割を剥ぎ取る体験がなければ、自己が崩壊するという危機感がある。旅行は贅沢品ではなく、社会生活を継続するための「必要経費」という位置づけ。

FD：経済的制約が強まるほど、旅行は「妥協して回数を増やすもの」ではなく、役割から解放された「自分」を取り戻すための、質に執着した「高額な自己修復」の機会となる。

4. 旅行費用の構造と捻出の工夫（全体総括）

根拠：「銀行の機械の一部になりそう」という不安を抱え、20万円を投じて「誰の期待にも応えなくていい自由」を買いに行く。

推論：彼女にとっての旅行とは、社会が求める「正解」や「効率」のルールから一時的に脱退するための唯一の手段である。将来不安による貯金と、現在の自分を保つための高額支出という矛盾の中で揺れながら、一回の旅行に過剰なまでの意味とコストを詰め込んでいる。

FD：2026年の20代（特に真面目な層）にとって、旅行は生活を彩るオプションではなく、抑圧的な社会構造や経済的制約の中で「自分という個」を死守し、正気を保つために支払わなければならない、重く切実なコストとなっている。

1. 導入

【インタビュアー】 本日はお忙しい中、お時間をいただきありがとうございます。今日は、普段の生活のことや、お休みの日の過ごし方などについて、ざっくばらんにお話を伺えればと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。まずは、今どのような生活を送られているのか、簡単に自己紹介をしていただけますか？

【対象者】 あ、よろしくお願いします。ええと、今は都内の銀行で働いていて、今年で3年目になります。職場は日本橋の方なんですけど、家も中央区なので、実家から通っています。家族は両親と一緒に住んでいて、一人っ子です。

【インタビュアー】 ありがとうございます。日本橋の銀行にお勤めなんですね。普段、お休みの日はどのように過ごされていることが多いですか？

【対象者】 普段は……そうですね、土日は基本お休みなんですけど、平日は結構バタバタしているので、土曜日はお昼ぐらゐまで寝ちゃってることが多いかもしれません（苦笑）。午後は銀座とか有楽町の方まで歩いて行って、ちょっと買い物したり、カフェで友達とお茶したり。最近は、SNSで見つけた美味しそうなスイーツのお店を巡るのにはまっていて、友達と「次はここ行こう」ってリストを作って回ったりしています。

【インタビュアー】 銀座や有楽町でお買い物やカフェ巡りをされているんですね。最近ハマっているという「スイーツのお店巡り」について、もう少し詳しく伺いたいのですが、具体的にどのような基準でお店を選んだり、楽しまれたりしているんでしょうか？

【対象者】 基準……。うーん、やっぱり「映え」も大事なんですけど、最近はそれだけだと満足できなくて。味はもちろん、お店の雰囲気落ち着いているとか、そこにしかない限定メニューがあるか、みたいなのを見ています。1回のお茶で2,000円とか3,000円することも普通にあるので、失敗したくないなっていう気持ちが強くて。インスタの保存数が多いところとか、リールで詳しく紹介されているところをかなり読み込んでから行きますね。

【インタビュアー】 「失敗したくない」という言葉がありましたが、その感覚をもう少し詳しく教えてくださいいただけますか？

【対象者】 あー、なんて言うか……。今は何でも高いじゃないですか。カフェ代もそうですし、服を買うにしても昔より値上がりしている感じがして。限られたお給料の中で、自由に使えるお金ってそんなに多くないので、わざわざ時間とお金を使って行くからには、「思ったのと違った」ってなりたくないんですよね。だから、事前にしっかり調べて、確実に「あ、今日は充実してたな」って思えるものにだけお金を使いたい、みたいな感じです。

2. 2026年のGW・夏休みの旅行計画と背景意識

【インタビュアー】 「確実に充実してたなと思えるものにお金を使いたい」というお話、よくわかります。ありがとうございます。では、そうした日々の過ごし方を踏まえて、今年、2026年の大型連休や夏休みの予定についても伺わせてください。まず、今月末から始まるゴールデンウィーク（GW）は、どのように過ごされる予定ですか？

【対象者】 GWは……特にどこか遠出する予定はないですね。カレンダー通りのお休みなんですけど、

どこに行っても混んでるし、何より旅費が信じられないくらい高いじゃないですか。新幹線もホテルも、普段の倍以上するところもあって。今の時期に無理して旅行に行く必要はないかなって思っちゃって、都内で友達とお買い物したり、ちょっと良いレストランを予約してランチしたりするくらいに留めておくつもりです。

【インタビュアー】 GW はあえて遠出せず、都内で過ごされるのですね。旅費が「倍以上するところもある」というお話でしたが、具体的に何か価格を調べたり、検討したりした上での判断だったのでしょうか？

【対象者】 一応、一回はインスタとか予約サイトで見ましたよ。金沢とか、ちょっと近場で行けそうなところを。でも、1泊で数万円とか、普段の感覚からすると「え、このビジネスホテルでこの値段？」って引いちゃうような金額で。そこまでして今行く価値あるかなって考えたら、それなら連休明けの普通の土日に安く行くか、夏休みにしっかりお金をかけた方が賢いなって思っちゃいました。

【インタビュアー】 「夏休みにしっかりお金をかけた方が賢い」とのことですが、今年の夏休みについては何か具体的な計画を立てられているんですか？

【対象者】 夏休みは、沖縄に行こうと計画しています。8月の後半に4泊5日くらいで。これはもう、去年の冬くらいから「来年の夏は絶対沖縄に行こう」って決めていたんです。やっぱり、せっかくの長期休暇だし、1回は非日常を味わいたいなと思って。

【インタビュアー】 夏休みは沖縄に行かれるのですね。その計画について、詳しく教えてくださいませんか？ 現時点での移動手段や宿泊先、予算など、決まっている範囲で構いませんか？

【対象者】 航空券はもうマイレージとかも使いつつ、早割で押さえました。ホテルは……奮発して、恩納村にあるリゾートホテルに2泊して、残りの2泊はもう少し手頃な那覇市内のホテルにしようかなって考えてます。全部を高級なところだとすると予算オーバーになっちゃうので。予算は、全部込みで15万円から20万円くらいに収めたいなとは思ってるんですけど……物価も上がってるし、正直どこまで膨らむかちょっと怖いんです。

【インタビュアー】 予算は15万~20万円くらいで、ホテルのランクを分けるなど調整されているのですね。移動手段や宿を選ぶ際に、一番「ここは譲れない」と重視したポイントは何ですか？

【対象者】 一番は、やっぱり「ホテルからの景色とプール」ですね。沖縄に行くからには、青い海が目の前に見えて、ラグジュアリーな気分になれる時間は絶対に作りたくて。さっきお話しした「失敗したくない」というのと一緒に、中途半端なホテルに泊まって「なんか普通だったね」ってなるのが一番嫌なんです。だから、高いお金を払う2泊分は、徹底的に口コミを読んで、写真も加工じゃないか疑いながら（笑）、本当に満足できそうなところを選びました。

【インタビュアー】 「加工じゃないか疑いながら」徹底的に選ばれたのですね。その費用について伺いたいのですが、今回の15万~20万という金額は、普段のお仕事のお給料や生活費と比較して、ご自身の中でどう位置づけていますか？

【対象者】 うーん……正直、かなり重いです（苦笑）。手取りの中から、毎月コツコツ貯金している分と、あとはボーナスを充てる感じです。私、大学の時の奨学金の返済も毎月あるので、自由に使えるお金って、実はそんなに残らないんですよ。だから、この旅行代は「数ヶ月分の我慢の結晶」みたいな感じです。普段のカフェ代とか服代を少しづつ削って、ここに集約させてる感覚ですね。

【インタビュアー】 「数ヶ月分の我慢の結晶」という言葉が印象的です。今回の沖縄旅行を計画する

中で、金銭面や日程などで、本当はやりたかったけれど「我慢したこと」や「諦めたこと」は具体的にありますか？

【対象者】 本当は、海外に行きたかったんですよ。ハワイとか、グアムとか。でも、今の円安と燃油サーチャージを見たら、とてもじゃないけど手が届かなくて。25歳になって、仕事も3年目で少し余裕も出てきたし、自分へのご褒美に海外！って思ってたんですけど、見積もってみたら沖縄の倍くらいかかる計算になっちゃって。今の私の経済状況でそこまで出すのは、ちょっとリスクが高くなって諦めました。将来のために貯金もしておかなきゃいけないし、奨学金もあるし……。

【インタビュアー】 海外も検討されたけれど、将来の貯金や奨学金との兼ね合いで沖縄にされたのですね。ちなみに、去年の2025年の過ごし方と比較して、今年「変えたこと」や「変えざるを得なかったこと」はありますか？

【対象者】 去年は……まだ3年目になる前で、もっと「なんとなく」で決めてた気がします。GWも弾丸で近場に行ったりしてたし。でも今年は、より「選択と集中」がはっきりした気がしますね。行かない時は徹底的に行かないで、都内で贅沢する。行く時は、しっかり調べて、確実な満足度にお金を払う。物価が上がって、とりあえず行くっていう「中途半端な贅沢」ができなくなった分、慎重になったんだと思います。

【インタビュアー】 そもそも、なぜ「来年の夏は絶対沖縄」と、去年の冬というかなり早い段階から決めていたのですか？ 旅行先の選択肢は他にもたくさんある中で、なぜ沖縄だったのでしょうか？

【対象者】 うーん、なんででしょうね……。一番は、やっぱり「確実さ」かなと思います。さっきも言った通り、今は何でも高いから、失敗するのが本当に怖くて。沖縄なら、学生の頃にも行ったことがあるし、何があるかも大体わかるじゃないですか。今の自分の予算で、どれくらいのクオリティの「非日常」が買えるか、一番計算が立ちやすかったんです。

【インタビュアー】 「予算で買える非日常の計算が立ちやすい」とのことですが、具体的に他の選択肢と比べて、沖縄のどういう点が「確実」だと感じたのですか？

【対象者】 例えば、同じリゾートでも海外だと、今の円安だと「この金額払って、泊まれるのはこのレベル？」ってがっかりしそうだし、言葉や治安の不安もありますよね。かといって、近場の温泉とかだと「わざわざ高い時期に、普段の休日とあんまり変わらない景色を見に行くのもな……」って思っちゃって。沖縄の、あの突き抜けた青い海と空なら、絶対に「あー、旅行に来た！」って思える確信があったんです。冬の寒い時期に仕事で疲れてる時、インスタで流れてくる沖縄の綺麗な動画を見て、「よし、これを目指して半年頑張ろう」って、自分の中でゴールを決めた感じですね。

【インタビュアー】 「これを目指して半年頑張ろう」というゴールとして沖縄を選ばれたのですね。去年の冬に決めた時、具体的に沖縄の「何」を見たり聞いたりして、その確信を強めたのでしょうか？

【対象者】 あ、それはもう特定のホテルですね。SNSで流れてきた恩納村のホテルの、インフィニティプールの動画です。夕日が沈む時間帯の映像が本当に綺麗で……。「ここに行けば、私の今のストレスも全部消えるはず」って思っちゃいました(笑)。それからは、もう浮気せずに、そのホテルに泊まるためにいくら貯めるか、逆算して生活してた感じです。

【インタビュアー】 ちなみに、今回の沖縄旅行は一人で行くご予定ですか？

【対象者】 あ、いえ、地元の友達と二人です。高校からの親友なんですけど、彼女も今は都内で働いていて。一人で行くのも気楽でいいかなって一瞬頭をよぎったんですけど、やっぱりあのホテルのプー

ルとか、綺麗な景色を目の前にした時に、一人だとちょっと虚しくなりそうだなって思って（笑）。

【インタビュアー】 「一人だと虚しくなりそう」とのことですが、お友達と一緒に行くことで、旅行の「価値」や「楽しみ方」はどう変わると考えていますか？

【対象者】 やっぱり、「共有できる」っていうのが一番大きいですね。さっき言った「映え」もそうですけど、写真を撮り合ったり、「ここすごいね」って言い合ったりすることで、その時間の価値が何倍にもなる気がして。あと、現実的な話をすると、ホテル代を割れるのも大きいです（笑）。一人であるランクのホテルに泊まるのは、今の私のお財布事情だとちょっと、というか、かなり厳しいので。

【インタビュアー】 ホテル代を割れるという現実的なメリットも大きいんですね。お友達との間でお金の話、例えば「これくらいまでなら出せる」といった予算のすり合わせは、どのようにされましたか？

【対象者】 そこは結構シビアに話しましたね。お互い銀行とかで働いていて、金銭感覚が近いので話しやすかったんですけど。「今回はこのホテルに泊まるのがメインだから、食事は1回は豪華にするけど、あとは現地のお店で安く済ませよう」とか。彼女も奨学金の返済があるって言っていたので、どこにお金をかけてどこを削るか、最初にかなり細かく握りました。そうしないと、旅行中に「え、そんなに使うの？」ってモヤモヤしたくないじゃないですか。せつかく高いお金を払って行くんだから、そこでのストレスはゼロにしたいんです。

【インタビュアー】 でも、お二人とも都内でご実家に住まわれているんですよね？ 奨学金の返済があるとはいえ、家賃などの大きな固定費がかからない分、旅行費用の捻出はそれほど大変ではないのではないですか？

【対象者】 あー……。まあ、確かに家賃を払っている一人暮らしの友達に比べれば、マシなのかもしれないですけど……。でも、実家だからといって、お給料が全部自由に使えるわけじゃないんですよね。

【インタビュアー】 「全部自由に使えるわけではない」というのは、具体的にどういったことでしょうか？

【対象者】 まず、家には毎月5万円入れています。これは親との約束なので。それに加えて、奨学金の返済が月々3万円くらいあって。これだけで8万円ですよ。そこから通信費とか、銀行員なので身だしなみの服代、化粧品代、あと友達との交際費を出すと、手元に残る貯金用のお金って月数万円がいいところなんです。

【インタビュアー】 月数万円の貯金から捻出されているんですね。

【対象者】 そうなんです。だから15万~20万の旅行代って、半年分くらいの「貯金のすべて」を注ぎ込む感覚なんです。それに、銀行に勤めると周りの先輩たちの生活も見えちゃうんですけど、皆さん結構堅実で。「将来のためにこれくらいは貯めておかないと」という空気感もすごいので、全部使っちゃうのは怖い、というか。実家だから余裕があるよねって思われることもあるんですけど、自分の中では「将来への備え」を削ってまで行く旅行なので、やっぱりすごく勇気がいる買い物なんです。

【インタビュアー】 なるほど、実家暮らしであっても、決まった支出や将来への備えを考えると、決して余裕があるわけではないんですね。具体的に、月々どの程度を貯金に回されているのでしょうか？ また、その貯金はすべて今回の旅行のような「遊ぶため」のものとして貯めているのですか？

【対象者】 月々の貯金は、だいたい5万円から、頑張って7万円くらいです。でも、これを全部旅行

に使っちゃうわけじゃなくて。自分の中では一応分けていて、半分は「将来のための貯金」として、もう一つ別の口座に絶対動かさないように入れています。銀行にいと、新 NISA とか投資の話も嫌でも耳に入ってくるので、将来への不安というか、「今あるお金を全部使い切っちゃいけない」っていう強迫観念みたいなものは結構ありますね。

【インタビュアー】 「将来のための貯金」と「動かすお金」を明確に分け、さらに「全部使い切ってはいけない」という感覚をお持ちなのですね。その「動かさない貯金」以外で、今回の沖縄旅行のような大きな出費に充てられるお金については、普段どのように管理したり、優先順位をつけたりしているのでしょうか？

【対象者】 それはもう、今回の沖縄みたいに「ここだ！」って決めたものに対して、残りの貯金を全部ぶつける感じです。私、普段の生活では結構ケチというか、コンビニで飲み物を買うのももったいないって思うタイプなんです。マイボトル持ち歩いたり。そうやって日々の生活で数百円単位を削って、なんとか旅行用の資金を浮かせてる。だから私にとっての旅行は、ただの遊びっていうより、「半年間、自分を律して節約してきたことへの報酬」みたいな位置づけなんですよね。そうじゃないと、こんな金額、怖くて一気に払えないです。

【インタビュアー】 「半年間自分を律してきた報酬」という言葉、重みがありますね。そこまでして「報酬」を沖縄での体験に集約させるのは、ご自身にとってそれが必要なことだからでしょうか？もし仮に、その 20 万円を旅行に使わずにさらに貯金に回すとしたら、どんな気持ちになりますか？

【対象者】 うーん……。もしこれを使わずに貯金したら、通帳の数字は増えて安心はするんですけど、心が死んじゃう気がします（苦笑）。仕事は仕事で、銀行の窓口とか事務ってミスが許されないし、毎日神経をすり減らしている感覚があって。その「ご褒美」が何も無いまま、ただ奨学金を返して将来のために数字を積み上げるだけの生活って、何のために働いているのかわからなくなっちゃう。だから、20 万円は高いし、出す時は手が震えるかもしれないですけど、それがないと明日からの仕事のモチベーションが保てないんだと思います。

3. 旅行に対する意識・旅行の意味づけ

【インタビュアー】 少し視点を広げて伺いたいのですが、今後やってみたい旅行や、憧れている旅のスタイルなどはありますか？

【対象者】 憧れ……。やっぱり、いつかはヨーロッパに行きたいです。パリとか、北欧の可愛い街並みを歩いて、素敵なカフェでゆっくりして。それもやっぱり、「本物を見たい」という欲求なんだと思います。今は SNS でいくらでも綺麗な動画が見れますけど、その場所の空気とか、匂いとか、そういう「手触り」のある体験を、いつか自分への最大のご褒美として実現させたいですね。

【インタビュアー】 「手触りのある体験」ですね。最近では「デジタル旅行」といって、YouTube で絶景を眺めたり、VR などのイマーシブ型で疑似体験したりする楽しみ方もありますが、そういったものについてはどう感じますか？

【対象者】 うーん、それは……。正直、別物ですね。仕事で疲れてる時に YouTube で綺麗な景色を流しっぱなしにすることはありますが、それは単なる「癒やし」とか「現実逃避」であって、私の中では旅行にはカウントされません。むしろ、画面で見れば見るほど「本当に行かなきゃ」という焦り

に似た気持ちが強くなるというか。コスパはいいんでしょうけど、私の求めている「報酬」にはなり得ないかなって思います。

【インタビュアー】 あくまで画面越しは「別物」なのですね。一方で、例えば「青春18きっぷ」を使って、時間をかけて安く移動するような旅のスタイルについてはどう思われますか？

【対象者】 あー……それは、今の私には一番選ばない選択肢かもしれないです。学生の頃なら「安く済んでラッキー」って思えたんでしょうけど、今は「時間」もすごく貴重なので。せっかくの休みに何時間も電車で揺られて移動だけで終わっちゃうのは、今の私にとっては贅沢どころか、逆にストレスになっちゃいそうで。だったら、もっとお金を貯めて、パッと飛行機で飛んで、現地で過ごす時間を1分でも長くしたい。今の私にとっての旅行は「効率良く、最大級の非日常を買うこと」なので、移動に苦勞するのはちょっと違うかなって。

【インタビュアー】 「効率良く、最大級の非日常を買うこと」が今の軸なのですね。では、改めて伺います。あなたにとって「旅行」とは、一言で言うところのどのようなものと言えますか？

【対象者】 そうですね……「自分を維持するための、一番高いメンテナンス費用」でしょうか。ただの娯楽っていうより、これがないと仕事も節約も頑張れないし、精神的なバランスが崩れちゃう。今の世の中、黙っててもお金は出ていくし、将来への不安も尽きないですけど、それでも「これがあるから大丈夫」って思えるための、絶対に必要な必要経費、みたいな感覚です。

【インタビュアー】 「自分を維持するためのメンテナンス費用」であり「必要経費」ということですね。今後、物価の上昇や社会保険料の負担、そして奨学金の返済といった制約がさらに強まっていくことが予想されますが、その中で、あなたの「旅行」はどうなっていくと思いますか？

【対象者】 ……もっと「二極化」していく気がします。「とりあえずどっか行こう」みたいな気軽な旅行は、もう贅沢すぎてできなくなる。だから、GWみたいに「行かない時は徹底的に引きこもって、一円も使わない」っていう時期と、夏休みみたいに「ここぞという時にドカンと使う」っていう時期の差が、今よりもっと激しくなるんじゃないかなって。現実的には、回数は減らさざるを得ないだろうけど、その分、一回の質に対する「執着」はもっと強くなると思います。

【インタビュアー】 「回数は減るが、一回の質への執着が強くなる」という予想に対して、ご自身ではどのように捉えていますか？

【対象者】 寂しいですけど、それが「賢い生き方」なのかなって、半分諦めてる部分もあります。でも、どんなに制約が厳しくなっても、「妥協した安物の旅行」だけはしたくないです。それをするくらいなら、回数を3年に1回に減らしてでも、あの恩納村のホテルのプールみたいな、震えるほど綺麗な景色を見に行きたい。そこだけは、絶対に譲りたくないラインですね。

【インタビュアー】 どれだけ制約があっても「妥協した旅行」はしたくない、そこが譲れない一線なのですね。

沖縄旅行のお話に戻りますが、現地でのアクティビティというか、過ごし方の予定はどのようにお考えですか？「これは絶対にやりたい」といった、具体的なこだわりは何かありますか？

【対象者】 うーん、実は「何もしないこと」が一番のやりたいこと、かもしれません。もちろん、美ら海水族館とか定番の場所にも行くとは思いますが、一番のこだわりは、さっき言った恩納村のホテルのプールサイドで、ただただ海を眺めながらゆっくりすることなんです。

【インタビュアー】 「何もしないこと」が一番のやりたいこと、なのですね。その「プールサイドで

海を眺めてゆっくりする」という時間に、どのような価値を感じているのでしょうか？

【対象者】 なんて言うか……「時間の浪費」をしたいんだと思います。普段の仕事って、常に時計を見て、「次はこの処理」「次はこの締め切り」って、分単位で何かに追われているじゃないですか。実家にいても、親の目があったり、家事を手伝わなきゃいけないかったりして、本当の意味で「自分のためだけに、贅沢に時間を使う」ことって、都内にいると意外と難しいんですよね。

【インタビュアー】 都内にいると難しい「贅沢な時間の使い方」を沖縄に求めているのですね。その「贅沢な時間」を過ごすために、何か特別に準備していることや、これだけは欠かせないというアイテムなどはありますか？

【対象者】 アイテム……あ、ちょっと奮発して、新しい水着と、その上に羽織る可愛いリゾートワンピースを買いました。あとは、普段はスマホばかり見ちゃうので、あえてその時だけはスマホを置いて読めるような、ちょっと厚めの小説を一冊持っていこうかなって。結局、後でインスタに載せるための写真は撮っちゃうと思うんですけど（笑）、撮り終わった後は、誰にも邪魔されずに、ただ風を感じて本を読んでいた。その「デジタルから離れて、何にも追いかけれない自分」になれることが、20万円払ってでも手に入れたい、私にとっての「究極の非日常」なんだと思います。

【インタビュアー】 少し意地悪な聞き方になってしまうかもしれませんが、普段の休日もインスタで目星をつけたカフェに行ったり、お買い物をしたりと、それなりに充実した楽しみを見つけていらっしゃいますよね。そうすると、先ほど「旅行は半年間自分を律してきた報酬」と仰ったほど、普段の生活がそこまで味気ないものだと正直思えないのですが……。本音のところ、なぜそこまでして旅行に行きたいのでしょうか。改めて、よく考えてみていただけますか？

【対象者】 うーん……（少し黙り込む）。……そう言われると、確かにそうですね。毎週カフェにも行ってるし、全然楽しくないわけじゃないです。でも、なんて言うか……。

普段のカフェ巡りとか買い物って、結局は「延命処置」に近いんだと思います。平日の銀行の仕事で、ミスしちゃいけない、愛想良くしなきゃいけないって張り詰めている中で、週末に美味しいものを食べないと月曜日からまた頑張れない。だから、それは「日常をマイナスからゼロに戻すための作業」っていう感覚なんです。

【インタビュアー】 「マイナスからゼロに戻すための作業」。

【対象者】 はい。でも、旅行は違うんです。特に今回の沖縄は、20万円も払って、わざわざ遠くへ行って、誰も私のことを知らない場所で「何もしない時間」を買うわけじゃないですか。それは、マイナスをゼロにするんじゃなくて、自分の心の中に「これがあるから、また半年間はゼロの状態を維持できる」っていう、大きな貯金を詰めに行く感覚なんです。

うまく言えないんですけど……普段のカフェは「現実を乗り切るためのエナジードリンク」で、沖縄旅行は「自分が自分であることを確認するための儀式」みたいな。奨学金もあって、物価も上がって、将来のために新NISAだなんだって数字を追わなきゃいけない。そんな「正解」ばかりを求められる窮屈な毎日から、20万円払って一瞬だけ「正解」も「効率」も全部捨てていく。そうしないと、私、本当にただの「銀行の機械の一部」になっちゃいそうな気がするんです。だから、理屈じゃないんですよね。行かないと、今の私が壊れちゃうんだと思います。

【インタビュアー】 さらに踏み込んで伺って申し訳ないのですが、今の生活において、仕事がそこまで窮屈で面白みのないものなののでしょうか？ お話を伺っていると、日常そのものに充実している感覚が

薄いようにも感じてしまうのですが……。

【対象者】 ……うーん。面白いか、面白くないかで言えば、たぶん「面白くない」んだと思います（苦笑）。もちろん、銀行の仕事に誇りが無いわけじゃないですよ。でも、3年目になって一通り仕事ができるようになると、毎日が同じことの繰り返しというか。ミスなく、波風立てずに、決められた枠の中で正確に処理し続ける。それが「正解」とされる場所なんです。そこで評価されても、「自分じゃなきゃできない仕事」をしている感覚ってあまり持てなくて。

【インタビュアー】 「自分じゃなきゃできない仕事」をしている感覚が持てない、のですね。

【対象者】 そうですね。家でもそうです。中央区の実家で、恵まれているとは思いますが。でも、結局は「娘」としての役割があって。親も私が安定した職について実家にいることを喜んでくれているし、その期待に応えなきゃっていう意識がどこかにずっとある。カフェ巡りも、さっき「延命処置」って言いましたけど、あれも SNS で誰かが「正解」って言った場所をなぞっているだけなのかなって、時々ふと思うんです。

【インタビュアー】 「正解」をなぞっているだけかもしれない、と。

【対象者】 はい。だから、私にとっての沖縄旅行って、誰も私に「銀行員」としての正確さも、「娘」としての良識も、SNS での「映え」の正解も求めてこない場所へ逃げることなんです。20万円は、その「誰の期待にも応えなくていい自由」を買うための代金なんだと思います。今の私には、それくらいの金額を払って、物理的に今の生活から自分を引き剥がさないと、自分がただの「役割の集まり」になって消えてしまいそうで。贅沢と言われればそうかもしれませんが、そうやってたまに「何者でもない自分」に戻る時間がないと、今のこの、正解ばかり求められる社会では生きていけない気がします。

【インタビュアー】 本日は、お仕事やプライベートのデリケートなお話まで、丁寧にお聞かせいただき本当にありがとうございました。お話しいただいた内容は、今後の貴重な参考にさせていただきます。